

愛媛県生涯学習センター所長賞 壁新聞部門
「住友の煙害問題に立ち向かった-伊庭 貞剛」
新居浜市立船木中学校 第3学年 勝田 翠

-住友の煙害問題に立ち向かった- [きっかけ]

伊庭貞剛

(1847 - 1926)

四阪島煙害克服の歴史

明治16年	1883	惣領製錬所(のちに新居浜製錬所)着工
明治21年	1888	惣領製錬所操業開始
明治26年	1893	新居浜製錬所本格操業開始
		新居浜の煙害問題が表面化
明治28年	1895	四阪島を買収
明治30年	1897	四阪島製錬所着工
明治32年	1900	新居浜製錬所大煙突完成
明治34年	1901	四阪島製錬所建設2年間延期申請
明治35年	1902	四阪島製錬所建設工事再開
明治38年	1905	四阪島製錬所本格操業開始
		煙害が島外に波及
		越智郡林井村(現今治市)に硫酸試験場開設
明治39年	1906	日暮別邸完成・四阪島製錬所落成式
明治41年	1908	四阪島煙害で相次ぐ農民蜂起
明治42年	1909	住友と農民代表による煙害問題交渉合意に達せず
明治43年	1910	第1回煙害協議会が開催され第1回賠償契約成立
大正2年	1913	新居浜に住友肥料製造所開設
大正3年	1914	六本煙突完成するも煙害は更に拡大
大正9年	1920	東平での比重選鉱開始に伴い硫酸の販売開始
大正10年	1921	四阪島製錬所の大改造工事着工(大正14年完成)
大正11年	1922	海浜ケーブル敷設工事完成
大正13年	1924	四阪島製錬所大煙突完成(高さ64m)
大正14年	1925	屋敷山に洋遊園地完成
大正15年	1926	コントロール式硫酸生産装置
昭和3年	1928	ペルルピ式硫酸工場着工(昭和4年第1期、昭和4年第2期完成)
昭和12年	1937	中和工場着工・日暮別邸増築
昭和14年	1939	中和工場完成
		最後の煙害協議会開催、煙害問題完全解決
昭和29年	1954	生鉱硫酸製錬法開始に伴い中和工場中止
昭和34年	1959	硫酸工場を新ペルルピ式に改造
昭和46年	1971	東平製錬所完成に伴い四阪島での銅製錬操業縮小
昭和48年	1973	四阪島での銅製錬終了
昭和52年	1977	四阪島での硫酸生産操業開始
平成22年	2010	株式会社四阪製錬所
平成25年	2013	四阪島の大煙突解体
平成30年	2018	日暮別邸を新居浜市内の屋敷山に移築

-環境対策の先駆者-



弘化4年(1847)1月5日、伊庭貞剛は近江(現滋賀県)自衛の長男として生まれる。大阪上等裁判所判事や明治12年(1879)1月に退職するが、2月4日、叔父久瀬平の勧めにより住友に入社。明治13年5月1日大阪本店支配人となる。明治27年、農民の煙害問題を解決するため、別子支配人を志願。翌年には、煙害問題解決のため山根製錬所を開業。翌年には新居浜製錬所の四阪島移転を決定する。また、本格的造林事業を計画断行し、毎年100万本以上の植林を別子山に行き、まさにわが国「環境対策」先駆者であった。そして、明治33年2月2日住友専断理事に就任する。

「煙害問題」

製錬事業の拡大によって、別子銅山では、1844年に新居浜の惣領に洋式の製錬所を、1888年に湿式製銅を採用した山根製錬所を建設していたが、製錬時に排出される重硫酸ガスが農作物に被害を与えた。1894年に惣領で本格的な洋式製錬が開始されると被害は深刻化し、地元から出た抗議が行われたほか、農民による暴動も発生した。

解決に向けて

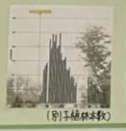
この煙害問題を解決するために、別子支配人として派遣されたのが伊庭貞剛であった。伊庭は、山根製錬所の操業を中止するとともに、根本的な対策として惣領製錬所を四阪島に移転することを決定した。四阪島は新居浜沖20kmの無人島で、移転に必要な費用は50万円に見積られたが、実際には総工費が173万円に押し上がった。煙害解消の役割を担い、巨額を投じて建設された四阪島製錬所であったが、その期待に応えることはできなかった。

1905年1月に四阪島製錬所が本格操業を開始すると、たちまち村々の村々で被害の声が上がった。ここに至って住友は、消害物質を出さないという根本的な解決策を決定する。つまり、製錬時に発生する重硫酸ガスを抑制すると、硫酸酸を硫酸を製造し、その硫酸を原料として過硫酸を生産する計画である。これにより、煙害を防止できるだけでなく、農家に安い肥料を提供することが可能になり、農業者へ貢献にもつながる。

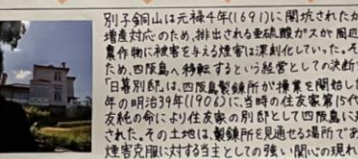
この計画を実行するために開設されたのが住友肥料製錬所である。

「別子山の植林事業」

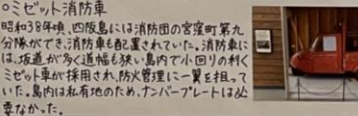
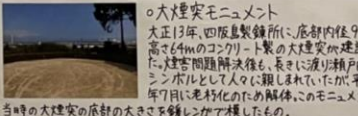
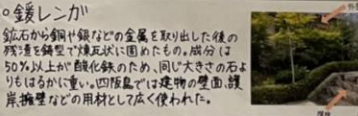
伊庭は、煙害や伐採により荒れ山となっていた別子銅山周辺の植林事業にも力を注いだ。産銅量の増加によって、新木炭、坑木などに大量の樹木が消費されており、それまで6年ほどかかっていた植林が1年ほどで済むようになった。1894年から植林の植林数を増やし、1897年に100万本、1901年には200万本を超えるまでになった。伊庭は、「別子金山を旧のあをとおした姿にして、之を大自然に戻さなければいけない」と述べた。



日暮別邸



別子銅山は元禄4年(1691)に開坑されたが、埋立地のため、排出される重硫酸ガスが周辺の農作物に被害を与える煙害は深刻化していった。そのため、四阪島に移転するという経営上の決断をした。日暮別邸は、四阪島製錬所が操業を開始した翌年の明治39年(1906)に、当時の住友家第15代当主友成の命により住友家の別邸として四阪島に建設された。その土地は、製錬所を見逃せる場所であり、煙害克服に対する当主としての強い関心の現れである。四阪島は住友の歴史を語る上で欠くことのできない地であるといわれている。



参考 文献
日暮別邸記念館 バックレット
伊庭貞剛-別子金山を旧のあをおとした姿に-
住友化学100年のあひ
伊庭貞剛 その11住友の歴史

伊庭貞剛略年表

- 弘化4年(1847)1月
5日、貞剛 田植の長男に生まれ近江国西宮村(現在の滋賀県近江八幡市)で育つ。幼少の頃より児島一郡通海で剣道を学び、また、西川吉輔に師事し尊皇思想を学んだ。
- 明治元年(1868)1月
師西川吉輔の求めに応じて京都御所警衛隊に属し、その後司法省検察、逓信裁判所判事長大阪上等裁判所判事など要職を歴任。
- 明治12年(1879)2月
叔父久瀬平の勧めで住友に入社。
- 明治13年(1880)5月
大阪本店支配人となる。
- 明治23年(1890)7月
選挙選出初の衆議院議員となる。
- 明治27年(1894)7月
別子支配人として専任赴任。
- 明治27年(1894)11月
初代住友専断理事久瀬平の引退に伴い、別子支配人任職のままその地位を引き継ぐ。
- 明治33年(1900)1月
2代住友専断理事に就任。
明治28年から引退までの伊庭は住友銀行、住友信託、別子銅山、林業、住友倉庫などを設立。また、煙害問題解決のため断行した四阪島製錬所の建設と別子山の植林事業は永遠に語り継がれる事業である。
- 明治37年(1904)7月
「事業の進歩発展に最も寄与するものは、青年の過失ではなく、老人の跋扈である」と58歳の歳で引退。別子山の別荘を機園に隣接。
- 大正15年(1926)12月
23日、80歳で没す。伊庭家墓所埋葬。

「日暮別邸館内」



「感想」

私は、今回調べたまで伊庭貞剛についてほとんど知らなかったけど伊庭貞剛の活躍が今新居浜が過ごすことができている原因だと思います。今回は、一昨年訪れることができたので、日暮別邸に実際に行って、日暮別邸や四阪島の歴史に触れることができた。伊庭貞剛は新居浜に深く関わっていて、煙害問題解決や別子銅山の植林など色々な環境問題に取り組んでいてすごいと思いました。

座右の銘「君子財を愛す、これを取るに道有り」